

2 学年（国語）の I C T 機器を活用した授業実践報告

1. 授業実践

単元・題材名	ことばを楽しもう
ねらい	回文の決まりを使った短文作りを通して、言葉の豊かさに気付き、回文遊びを楽しもうとすることができる。

2. I C T 機器の具体

I C T 機器	Jamboard
機能	付箋を用いた回文の同時作成・文字の複製、並び替え
活用の目的	同じ語を文字列の上下で揃えて並べて回文を作れることを視覚的、操作的に理解すること。

3. 学習活動中の児童の様子



①児童は、回文を作る決まりや Jamboard の付箋の使い方を想起した。

②児童は、Jamboard の 1 ページを二人で使い、回文の作成を行った。ページの真ん中の枠に二人で話し合いながら、お互いの例題の語が一文字ずつ書かれた付箋を用いて文字列の上下を揃えて並べていくことで、回文を作った。

③次に、Jamboard 上で互いの回文作りの状況を見合いながら、ページの左と右に分かれて一人一人回文作りに取り組んだ。提示された語を複製し、上から読んでも下から読んでも同じ語順になるように並べ替えていた。Jamboard の最後のページには、例題の語を用意しておくことで、必要に応じて、その例題の語を基に回文の作成を繰り返した。

4. 成果と課題

成果 回文作りの際に Jamboard を用いることで、同じ文字を複製し、並び替えを行うことが容易になる。そのため、文字を並べかえることを躊躇することなく、何度も試することができる。この操作を繰り返す中で、作った文を何度も読んだり直したりしながら、最初と最後の文字が同じことや、真ん中の文字は重なることもあるという回文の作り方の決まりに気付く様子が見られた。また、二人で 1 ページを使う際、操作の場所を区切ることで、自分の操作の場所が確保され、友達の活動の様子を参考にしたいときは、そのページを見られたことで、決まりに気付いたり、友達の作った回文を声に出して読んだりし、回文を楽しむ様子が見られた。

課題 Jamboard を使うと、語の並べ替えやコピーなどが容易にできる。また、友達の学習の様子も即時的に把握できるなどのよさがあるが、他の教科や単元で生かしきれていない。今後は、他の教科や単元でも二人の協働を生む課題の設定やしかけを工夫していきたい。